

資料(Data)

カンボジアの保育の現状と課題(2)

——国立養成学校に通う学生と保育施設で働く保育者へのインタビュー調査から——

Nursery Education in Cambodia and Issues Facing It: Interview Survey of Students at a National Teacher-Training College and Nursery School Teachers

石川 佳歩*・安藤 美琴**・山田 真紀***

ISHIKAWA, Kaho*

ANDO, Mikoto**

YAMADA, Maki***

キーワード：カンボジア・幼児教育・保育者養成・インタビュー調査

Key words : Cambodia, Teacher-Training, Nursery School Preschools, Interview Survey

はじめに

本稿は、2016年2月28日(日)～2016年3月5日(土)の1週間、卒業研究のためにカンボジアのプノンペンを訪問し、カンボジアの保育の現状について調査した研究の第二報告である¹⁾。ここでは以下の3つの報告を行う。第一に、カンボジア教育省幼児教育庁の元署長であるス・オー・アルンさんに聞き取り調査をし、把握することができたカンボジアの保育の現状と課題について論じる。第二に、カンボジアで唯一の国立幼稚園教員養成学校（以下、国立養成学校と表記）を訪問し、学生を対象として行ったインタビュー調査で明らかになったことを整理する。第三に、訪問した6つの幼稚園と保育園において、保育者を対象として行ったインタビュー調査で明らかになったことを整理する。

1. カンボジアの保育の現状と課題

第一節では、カンボジア教育省幼児教育庁の元署長であり、現在は、いくつかのコミュニティ・プレスクール（Community Preschool: 以下、CPS と表記）を運営する認定NPO 法人「若い難民を考える会カンボジア」（Caring for Young Refugees in Kambodia : 以下、CYK と表記）の教育顧問を務めるス・オー・アルンさんに提供いただいた情報をもとに、カンボジアの保育の現状と課題について整理していきたい。

(1) 0歳～3歳児を対象とする在宅プログラム（HBP：Home Based Program）

カンボジアにおける幼児教育は、0歳～5歳児を対象とする教育を指し、そのなかでも0歳～3歳児を対象とする教育を「在宅プログラム（HBP：Home Based Program）」と言う。在宅プログラムとは、専門知識と技術をもつスタッフが各地域の保護者グ

* 半田市立幼稚園教諭 ** 稲沢市立保育園保育士

*** 梶山女学園大学教育学部

ループのリーダーに子育てについての知識と技術を伝え、その保護者リーダーが地域の保護者グループにおいて、学んだ知識と技術を伝え、各家庭で望ましい保育と教育を施してもらおうとする組織的な教育のあり方を指す。統計資料によると、在宅プログラムの拠点はカンボジア国内に3,025箇所あり、専門知識と技術をもつスタッフは3,262人、保護者リーダーは15,509人、在宅プログラムをしている世帯数は75,003家族、在宅プログラムを受けている子どもは111,693人である。

(2) 3歳～5歳児を対象とする幼稚園

3歳～5歳児を対象とする教育には、就学前教育を行う幼稚園がある。カンボジアの幼稚園は、公立幼稚園、地域幼稚園、私立幼稚園の三つに分けられる。表2は公立幼稚園、地域幼稚園、私立幼稚園それぞれの保育クラス数と教育スタッフの人数を示したものである。また表3はカンボジア国内の乳幼児数を年齢ごとに示したものである。なお、0～6歳児の36万41人のうち、19.5%が幼児教育を受けており、3歳児は16.6%、4歳児は28%、5歳児は61.4%となっている。カンボジア政府は、国家計画として5歳児の数値を66%まで引き上げることが目標としている。

第一の公立幼稚園は、国によって運営されており、全額無償である。子どもと保育者の比率は25:1である。教育省が毎日の保育カリキュラムを作成して、各幼稚園で実践するようになっている。これは保育者の専門性が十分ではなく、保育者が自ら保育を計画して実践する能力がまだないためであるという。表1は教育省規定の公立幼稚園の保育カリキュラム（10月）の一部である。

第二の地域幼稚園（CPS: Community Preschool）は全国的に公立幼稚園が不足していることから作られるようになり、地域協議会が運営・管轄している。しかし、地域協議会は幼稚園だけでなく他の事業も行っているため、幼稚園の運営に対して関心が薄いのが現実である。幼稚園の教員の手当ては、教育省ではなく、内務省が支出している。地域幼稚園は、当初は村の寺の集会所か、教師の自宅の一室を用いて行われていたが、運営がうまくいかず失敗することが多かったため、2010年からこれらの場所を使用することは禁止となり、現在は、小学校に空き教室があれば、そこに幼稚園を開設することにした。それでも場所が足りない場合は、村の空き地に幼稚園を建設して運営することになった。小学校は一部制となっており、午前中で終了するため、小学校の教員が午後に地域幼稚園へ出向き、幼稚園の教員の研修を行っている。現在は、ほとんどの両親が働きに出ているため、子どもを十分に看護することができない。工場にいる子ども達はそのまま幼稚園に来るため、汚い服装で不衛生な状態で登園してくることも少なくない。

第三の私立幼稚園には、都心部にあり、教育省のサポートはなく、教育省に保育カリキュラムのレポートの提出を行っている。独自のカリキュラムで保育をしていることがウリになっており、英語を勉強する時間を多く取り入れている園が多いようだ。

表1 教育省指定のディリープログラム（10月の一部を翻訳）

時間	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
1時間目	子どもが集まり、国歌を斉唱する				
2時間目	子どもは列に並びクラスごとに教室に入る。	・縦列、横列、丸く作る。 ・電車の歌を歌う。	・小グループ縦列、横列、丸く作る。 ・電車の歌を歌う。	基礎な行動：“歩く” 普通に歩く・ゆっくり歩く・早く歩く	音楽を聞きながら、運動。“喋喋（学校へ行く）を歌う。（77頁参照）
3時間目	・朝の学級活動（子どもの出席を確認する。今後の予定を知らせる）。 ・良い習慣：こんにちは、さようなら。“こんにちは”の歌を歌う。 衛生と環境について説明。				
4時間目	想像：自分の名前、先生の名前が分かるように	想像：正しい能力「お寺と学校」（23頁参照）	想像：自分の名前、友達の名前と先生の名前が分かるように	想像：正しい能力“色”青、赤、黄（マジック袋ゲーム）	想像：ゲーム（宿題5と6ページ8）
5時間目	休憩				
6時間目	見学“学校”	絵“縦ラインと横ライン”	創造力“人の絵をはる”	検討力“クラス”	絵：右へのライン、左へのライン
7時間目	物語：“子ウサギが学校へ行く”	歌：“我々は幼稚園で勉強する”一回目（88頁参照）	詩：“我々は学校へ行く”一回目（25頁参照）	ゲーム：自然の中のいろんな音を聞く。	物語：“ニャリーさんは3人のお友達を連れて、学校へ行く”
8時間目	・子どもの勉強を評価する（よく聞く子、よく出来た子に印を付けてあげる）。 ・今日の活動を復習する。 ・衛生について説明する：顔、口、手、足、髪の毛。そのあと実践。				

表2 カンボジア国内の保育クラス数と教育スタッフ数

	保育クラス数	教育スタッフ数（注）
公立幼稚園	5,273 クラス	5,027 人
地域幼稚園	2,666 クラス	2,786 人
私立幼稚園	979 クラス	2,202 人
合計	8,918 クラス	10,015 人

（注）教育スタッフ数には教師のほかに園長や委員会のスタッフも含む。

表3 カンボジア国内の子どもの数

	人数
0, 1, 2 歳児	47,067 人
3 歳児	50,438 人
4 歳児	85,459 人
5 歳児	177,077 人
合計	360,041 人

(3) コミュニティ・プレスクール CPS としての保育園

一方、保育園については、公立の保育園は存在しておらず、すべて非政府組織 (non-governmental organization : NGO) や非営利組織 (nonprofit organization : NPO) が運営を支援しながら地域協議会が運営するコミュニティ・プレスクールである。カンボジア国内で保育園に通っている子どもは、全体の33.3%のみである。公立幼稚園に通っている園児には、国からひとりにつき1.5ドルの援助があるが、NGO／NPO が支援する園には、国からの援助は全くない。CPS としての保育園の増加を困難としているのが、村人の教育への理解不足である。村長が教育に関心を持ち、村人が幼稚園運営に積極的な関与を示してくれれば、幼稚園や保育園の設立の緒につくのであるが、実際にはこれが最も難関であるという。園舎の建設費用の捻出や、園の維持運営に比べても、乗り越えるのが困難な課題として、NGO や NPO の頭を悩ませている。

「幼い難民を考える会カンボジア CYK」の支援する CPS 保育園においては、建物や運営になるべくお金をかけないようにし、3年間は CYK が必要な資金を提供する。しかし4年目からは、それぞれの村の地域協議会が自主運営できるように指導していく。村が自主運営できるように、なるべくお金をかけない方法を考えており、例えば、保育者の給料は、実際はもっと高くすることもできるが、給料を高くしてしまうと、CYK の支援期間が終了したあとも、村の人々だけで同水準で運営を続けることが難しくなってしまうので、最初から保育者の給料は低い水準におさえておく。常に保育園が長く維持できる方法を考えているとのことである。

「幼い難民を考える会カンボジア CYK」は、都市部にあるスラム街にも保育所を開設することに力を注いできた。2006年の調査によると、カンボジア国内にスラム街は700箇所以上あり、スラム街では、一日1ドル以下で生活している家庭が33.4%にも上るといふ。スラム街では、識字率も低く、5歳までに死亡してしまう子どもの数は12人に1人にも上る。スラム街で働く保育者は毎月家庭訪問をし、休みがちな子になるべく園に来られるように、保護者に声をかけている。貧しい保護者が保育園の意味を理解せず、通園をおろそかにすることが大きな問題である。

(4) カンボジアにおける保育者の社会的地位と課題

カンボジアの保育者の社会的地位は、1998年までは尊敬される職業であり、公務員のなかではトップクラスであったのが、1998年以降、現在に至るまでに、尊敬される職業ではなくなってしまった。それは「子どもからお金をもらう職業である」という見方がされるようになったからである。保育者は低賃金でもある。一般的な職業においては、平均収入は月に128ドルから300ドル程度であり、それに残業代が加算される。一方、保育者の給与は月に100ドルである。教育職のなかでは、幼稚園と保育園が最低水準で、小学校、中学校、高等学校と学校段階があがるにしたがって給料も高くなる。また、アジアの国のなかでカンボジアの保育者の給料は一番低いと言われている。お隣のベトナムでは、月の給与が200ドルであり、カンボジアの2倍の水

準である。以前は100ドルあればなんとか生活できたが、近年は物価の上昇が続いており、保育者の給料だけでは生計を立てるのが困難な状況にある。2014年に教育省の大臣が替わったことにより、教育の質や教師の質を高めようという機運が高まっており³⁾、保育職や教職の給料を上げていこうとしているが、それ以上に物価も上がるので、生活は変わらないだろうと言われている。

カンボジアでは保育職は女性の仕事だと考えられている。そのため育児休暇制度があり、3か月の産休を取得できるが、3か月間だけなので、子どもが生まれる直前に産休に入る人がほとんどである。一方、男性保育者はほとんどいない。保育者養成学校に通う男子学生は、保育者としてしばらく働かないと、小学校・中学校・高等学校の教師になることができないため、期間限定で保育職に就こうとする人がほとんどである。保育職では、家族を養うことができず、結婚できないと考えられている。

カンボジアの保育の課題は山積している。第一に、幼稚園や保育園の絶対数が不足している。特に山間部や農村では、通える範囲に幼稚園や保育園がない。第二に、幼稚園や保育園があっても、村が貧しいので運営や維持が難しい。保育の価値についての理解も乏しいため、地域の協力を得ることが難しい。第三に、保育施設だけでなく、保育者も教材も保育室も不足している。第四に、子どもの衛生・健康管理が行き届いていない。健康診断を受ける機会がなく、病気になっても家が貧しいために病院を受診することができない。近くに病院がなく、また保健所があったとしても医者がいるわけではないので、医療の届かない場所は子どもにとって危険である。薬も不足している。これらをひとつひとつ辛抱強く解決していくことが、今のカンボジアには必要なことである。

2. 国立養成学校で学ぶ学生の意識

(1) 国立養成学校とは

カンボジアには幼稚園教諭を養成する学校はプノンペンに1校しかなく、この国立養成学校は教育省が管轄しており、修業期間は2年間である。公立の幼稚園の教諭になるためには原則として養成学校を卒業している必要がある。国立養成学校を卒業しなくても、教員採用試験を受けることができ、それに合格すれば教員になることのできるルートもあるが、非常に難関であるという。私立の幼稚園の教諭にもこの国立養成学校出身者がいるものの、私立の幼稚園では独自の養成プログラムをもつところも多い。ちなみに、コミュニティ・プレスクールの保育者になるためには、この国立養成学校を卒業している必要はなく、16日間の研修を受けることで有資格者となる²⁾。

国立養成学校は高校卒業後に受験でき、志願者が全国から集まるため、受験者は5,000人を超えるが、合格者は200人であり、難関である。浪人する人も多く、塾に通いながら何度も挑戦してやっと合格を手にする人もいるため、在学生の年齢構成は多様である。授業は、午前の部が7時～11時まで、午後の部が14時～17時までで、

土曜日でも午前の部の授業がある。多くの学生が養成学校内にある寮で生活しており、授業後の18時～20時は復習の時間となっていて外出することはできない。またアルバイトも禁止されているため、学費や生活費は、家族が仕送りをしてくれるお金に頼らざるをえないという。

(2) 国立養成学校で学ぶ学生へのインタビューから

我々は国立養成学校において、保育者を目指す5人の学生にインタビューすることができた。表4はインタビューした学生の属性とインタビュー項目、そして各学生の回答を表形式にまとめたものである。また本稿の末尾には、インタビューデータの逐語訳を掲載した。インタビューは通訳を介して行った。ちなみに、カンボジアでは孤児が自立できるように専門的な知識や技術を与える仕組みがあり、通訳をしてくれた男性は、カンボジアに住む日本人の支援を受けて日本語を身に付け、日本語とカンボジア語の通訳として自立している。

以下に、インタビュー項目ごとにどのような回答があったかを分析していきたい。

まず「目指している職業」については、国立幼稚園教員養成学校という名称から、幼稚園教諭を目指しているのだらうと予測していたものの、幼稚園教諭と答えた人は1名のみで、あとは中学校、高等学校、大学の先生とのことであった。カンボジアでは学校段階の上位の教師になるためには、下位の資格から順に取得していく必要があり、自分のなりたい学校段階の教師になるための出発点として、この国立養成学校に在学している学生が多いようだ。また、「先生をしながら、興味のあることを副業にしたい」と答える学生が多いことも特徴である。教師の勤務時間が比較的短いことと、教師という仕事だけでは十分な収入が得られないことが影響しているのかもしれない。

「その職業を目指すようになった時期と理由」については、「カンボジアの教員不足解消のために」「カンボジアの次の世代を育てることに貢献したい」という高い志とともに、「自分の得た知識や技術を子ども達に伝えたい」「子ども達とともに学ぶことで、自分の能力をさらに高めていきたい」という理由が語られていた。「どんな保育者・教員になりたいか」の質問については、「社会のよき人材を育成できる先生になりたい」と答えた学生が複数いるとともに、「優しい先生になりたい」「子ども達の見本となる存在になりたい」「自分の能力をすべて子ども達にあげたい」という回答もあった。

一方、「保育者は社会においてどのようにみられているか」という質問については、「先生は尊敬される職業である」という回答もある一方、「社会では幼児教育の重要性が浸透しておらず、幼稚園の先生は子ども達と遊んでいるだけだ」という理解不足があり、また他の学校段階の先生に比べて一番低く見られている現実もあることが語られていた。「保育職の労働条件」について聞くと、「幼稚園は基礎教育だけでなく、生活指導も行わなければならない、他の学校段階に比べても責任が重いのに、給料待遇面は恵まれていない」と認識されていることが分かった。

カンボジアではいまだに十分な教育を受けることのできない人々が多く、社会も発展途上にある。インタビューを通して、保育者・教育者として子ども達をよき人材に育て、国を発展させることに貢献したいという若者の熱い思いを聞くことができた。

3. 保育者の生活実態と意識

我々は調査旅行中に6つの幼稚園と保育園を訪問することができ、各園において1名ずつの保育者にインタビューをすることができた。表5はインタビューした保育者の属性と勤務先の概要、インタビュー項目、そして各保育者の回答を表形式にまとめたものである。なお、訪問した幼稚園と保育園はすべて「幼い難民を考える会カンボジア CYK」が支援している園であり、コミュニティ・プレスクール（CPS）に属するため、ここで働く保育者は地域で適任者として選任されたのちに16日間の研修を受けて保育者となった先生ばかりである。本稿の末尾に、インタビューデータの逐語訳を掲載した。以下、インタビュー項目ごとにどのような回答があったかを分析していきたい。

まず「保育者になろうと思ったきっかけ・仕事を続けている理由」については、「自分の村の子ども達にも教育を届けたい」「良い子どもに育てたい」という志をもつ者もいる一方、「子どもが好きだから」「生活のために働かざるをえないから」と答える者もいた。「保育者という仕事の魅力」については、「子ども達の成長が目に見えて感じられること」「卒園児がよき人材となり、小学校で能力を発揮したり、よい職業についたりして報告してくれること」や、「たくさんの子どもが通園してくれるようになったこと」と答える者もあり、幼児教育が十分に普及していない村や貧しい地域において、自分の働きかけにより幼児教育が少しずつ浸透していく様子を肌で感じたり、幼児教育が基礎となり子ども達が自分の能力を発揮するようになることを知ったりすることは、大きな喜びになるようだ。

一方、「保育という仕事の大変なところ」を聞くと、定員オーバーであったり、保育者ひとりで多様な年齢の子ども達を一斉に保育しなければいけない環境において、子どもが言うことを聞かなかったり、すべての子ども達が怪我をしないように安全面に気を付けたり、食事や排せつ等のお世話をしなければいけない状況にあることに、困難を感じる者もいるようだ。また、特にスラム街においては、親が貧しいために通園させられなかったり、近くに通える園がなかったり、また、村人や親が幼稚園での基礎教育の重要性を理解せず、協力的ではないことについても苦労しているとのことである。また、対処が難しいこととして「子どもがいうことを聞かないこと」「新しく入った子が親離れできずに泣くこと」に言及する者もいた。「保育するうえで注意していること」については、質問した全員が子どもの安全面に言及しており、子どもが怪我をしないように、交通事故にあわないように、喧嘩しないようにと目配りしていると答えた。

「保育者の一日の流れ」について聞くと、朝は6時か6時半には出勤するというところで、カンボジアの親の仕事の開始時間が早いことから、保育者の出勤も極めて早いということが分かった。保育園では子ども達に栄養を摂取してもらうため給食を提供することも重要な機能となっており、給食を作る専門員を雇用する余裕はないので、保育者が交代で調理していることも多い。幼稚園は午前中だけ、保育園でも15時すぎまでで閉園するため、朝が早い分、夕方は早めに帰宅できるようなのである。閉園時間までに子どもを迎えにくることのできない保護者のために、子ども達を自分の家に連れて帰り、保護者の仕事が終わるまで、自宅で面倒をみると答えた者もいた。

さらに、帰宅後も副業をする人が多いことが分かった。幼稚園教諭であれば、閉園時間が遅い保育園に手伝いにいたり、保育園の保育者であっても、夕方は農作業をしたり、教材としての布人形を作成したりしており、これらの副業により少ない保育者の給料を補っている。なお、布人形作りは「幼い難民を考える会カンボジア CYK」独自の副業制度であり、教材として販売する布人形や布ボールを作り、月に20個作れば、13万リエル（32.5ドル）を収入として得ることができる。ちなみに、布ボールは保育料が払えない保護者に作成してもらい、保育料に代えているとのことである。

また、「労働条件」について聞くと、ほとんどの保育者が「社会の発展により物価が上昇するなかで、保育者に対する給料は低いままなので、保育者の仕事だけでは生活していくことができない」と不満をもっており、「精神労働であり肉体労働でもあり、重労働であるにも関わらず薄給なのはバランスが悪い」「子どもが好きでないとやっていけない仕事だ」と言及する者もいた。「保育者の社会的地位」について聞くと、一般の人々と比較して「先生は知識人であり尊敬されている」と答える人がいる一方で、他の学校段階の先生と比較して「幼稚園は基礎教育をする重要な場であるにも関わらず、一番低く見られている」との認識を示す者もいた。加えて「カンボジアの保育が抱える問題」を聞くと、「親が安心して仕事に出られる場所をもっと増やす必要があること」「保育時間が短すぎること」「保育者が足らず、子どもが多すぎること」「保育所の不足や親の不理解により、通園できない子どもがいること」が挙げられていた。「必要な支援」についても聞くと、「村人だけでは幼稚園や保育園を運営していく力がないため、運営支援をしてほしい」「貧しい子ども達にとっては保育園で栄養のあるバランスの取れた食事をとることが大切であるため、給食のための支援をしてほしい」という意見が複数寄せられ、また絵本や遊具や必要な備品を求める声もあった。

おわりに

国立養成学校で学ぶ学生へのインタビューでは、教育が十分に浸透しておらず、社会も発展途上にあるカンボジアにおいて、難関の「国立養成学校」に合格したエリートとして、子ども達をよき人材に育て、国を発展させていくことに貢献したいという若者の高い志と使命感に触れることができた。

また、コミュニティ・プレスクールの保育者のインタビューから、異年齢でかつ規定を超える人数の園児への対応を迫られ、基礎教育としての数字や文字の教育を提供し、衛生面や健康面での基礎的習慣を身に付けさせ、栄養のあるバランスの取れた食事を提供し、怪我や喧嘩が起きないように安全面に目を配り、息つく暇もないほどの責任の重い重労働である保育の仕事に、やりがいと誇りをもって取り組む保育者の姿に触れることができた。副業しなければ生活していくことが難しいほどの低賃金であるにもかかわらず、カンボジアの幼児教育の普及に貢献していること、子ども達を良き人材として社会に送り出すことができていることを喜びとして奮闘する保育者たち。我々はその姿から、同じく保育を志すものとして、「保育者の使命感」など、多くを学ぶことができた。

謝 辞

「幼い難民を考える会 あいち」(現「ハンモックツリー」)の代表の高木正彦氏には、「幼い難民を考える会カンボジア CYK」との連絡調整をはじめ、カンボジアでの調査旅行の実現のために多大なるお力添えをいただきました。また「幼い難民を考える会 CYR」の理事で事務局長の関口晴美氏、CYK 保育アドバイザーのジェ・アウ・アールン氏、通訳をしてくださった CYR の理事で CYK の事務所長であるチャン・スレイ氏がなければ、このカンボジア調査旅行は実現しませんでした。訪問させていただいた国立養成学校のみなさま、幼稚園・保育園で働く保育者のみなさま、また園児の子ども達には、快く私たちを受け入れていただき、インタビューにお答えいただいたり、子ども達と交流させていただいたりしました。カンボジアでのこれらの経験は我々4年間の大学生活のハイライトであり、一生忘れられない思い出です。この調査旅行を支えてくださいましたすべてのみなさまに、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

■注

- 1) 第一報告は以下に掲載されている。安藤美琴・石川佳歩・山田真紀(2018)カンボジアの保育の現状と課題(1)―プノンベン近郊の幼稚園と保育園の実地調査から―。椋山女学園大学教育学部紀要, 11.
- 2) 清水由紀, 外山紀子, 松井由佳「カンボジアにおける幼児教育」『幼児教育分野におけるアジアの途上国の実態調査とネットワーク形成(課題番号16402039 平成16年-18年度 科学研究費補助金 基盤研究(B)研究成果報告書』平成19年3月。
http://www.ocha.ac.jp/intl/cwed_old/eccd/site1_p3_cambodia.pdf#search=%27%E3%82%AB%E3%83%B3%E3%83%9C%E3%82%B8%E3%82%A2+%E5%9B%BD%E7%AB%8B%E5%B9%BC%E7%A8%9A%E5%9C%92%27にて閲覧可能である。(平成29年12月1日接続確認)
- 3) カンボジアでは教員免許状を売買する汚職が問題になっている。貧しい地域では親戚でお金を出し合って数千ドルで教員免許状を買い、若者を教員として就職させ、その後、親戚に仕送りさせるという事例も少なくないという。教員になる基礎的な教育を受けないまま教員になる人がいるため、それが教員の質・教育の質を低下させる要因のひとつになっている。

表4 保育者を目指して学ぶ学生へのインタビューの概要

	Gさん	Hさん	Iさん	Jさん	Kさん
性別・学年・年齢	男性・22歳・1年生	女性・24歳・2年生	女性・20歳・2年生	女性・22歳・2年生	男性・26歳・2年生
目指している職業	中学の先生	保育者	大学の先生	中学の先生	高校の先生
その職業を目指し始めた時期と理由	小さいころから「先生になりたい」と思っていた。幼稚園の教育から小学校、中学校と順番に資格取得を目指す。先生が好き。人に教育をしたい。	高校を卒業してから。幼児期の基礎教育が重要だと考えるから。今のカンボジアでは先生が足りないことと先生の必要性を知っている。	中学を卒業してから。保育者の経験を生かし中学の先生になり、最終的には大学の先生になりたい。自分の担任の先生が教えるのが上手で、自分も学んだことを他の人に伝えていきたいと思った。	小学3年生の頃から。当時先生に叩かれた経験があり、そのリベンジをしたい。今はそのような気持ちはなく、自分の能力をレベルアップさせたいから。	中学1年生の頃から。幼児教育をもっと普及させ、自分だけでなくカンボジアの次の世代がもっと勉強できるようにしたい。先生になれるように勉強することができると、他の人も勉強させることができるから。
今の夢を諦めた理由、別の夢に変わったこと、変わったことにはあるか	ない。ずっと先生になりたくて、今年、5回目の挑戦で養成学校に合格できた。	ない。しかし保育者として働きながら商売もしたい。	ない。しかし先生になりながら結婚式のアレンジをする会社でも働きたい。	ない。しかし先生になりながら服を作る人にもなりたい。	ない。しかし先生になりながら農業をして家を改築したい。
自分が保育園に通っていたころ、何になりたかったか	データなし	自分の村に幼稚園がなく、通っていなかった。生活するだけで精一杯で夢はなかった。	保育園に通っていた。小さい頃は歌が好きだったので歌手になりたかった。	家族みんなで生活していいことができず、夢はなかった。	ビジネスマンになりたかった。ビジネスをやっている人は皆お金持ちだから。
実習に行ったときどう感じたか	まだ行っていない。	1日目は緊張した。子どもにも慣れなくて、顔も覚えてくれないので話を聞いてくれるようになった。	泣く子もあり、話を聞いてくれない子もいて大変で初日は迷う気持ちもあった。しかし先生になりたい気持ちからは変わらないので、これからも目指し続ける。	疲れたときや大変なときはどうして自分は先生を目指しているのだろうと疑問を持つこともあった。しかし小さいころから先生になりたいと思いつつ、養成学校の入学試験にも合格したのに簡単にやめることはできないと思う。	疲れたときや大変なときは自分の将来の夢に対する気持ちで少しずれた。しかしこの養成学校に入るために同年もかかりやっとなつたので、最後まで頑張らないうけないと思いつつ、これからは頑張り続けようと思う。
どんな保育者・先生になりたいか	良い先生になり、次の世代の見本になれるような先生になりたい。	良い先生になり、子どもをかわいがってあげたい。自分の能力を全部あげたい。	良い先生になつて、子どもが理解できるように、優しく教えてあげたい。	子どもにも優しく接したい。先生は「第二のお母さん」と呼ばれる存在。その通りの存在になりたい。次の人材を育てるためには幼児期が大切なので、社会の良き人材となるように育てたい。	良い先生となり、子どもたちのことをよく理解し、子どもにも良い人になつてほしい。

保育者の魅力は何だと思うか	まだ多くの人が教育を受けることができず、悪いことをする人もいる。そのようにならな人に良い人になってもうために先生となり教育をしたい。	尊敬されるどころと、子どもを良い方向に導くことができる。	中学1年生の頃に素敵な先生に出会った。その人を見て自分もなりたいと思っていた。先生は格好良い。その先生みたいになりたい。	先生になつたら尊敬され、人材を増やせる。自分の村には能力を持った人がいないので、もつと能力を持った人が増えるように。	先生は子どもをコントロールできる、素晴らしい仕事。良い先生が次の世代の見本になれることが魅力。
保育所・幼稚園の課題は何か	話を聞けない子が多いこと。遊びばかりが好きなくこと。親と離れたがらないこと。きちんと見ていないこと。事故や怪我にあう危険があること。トイレのお世話をしなければならないこと。	子どもをコントロールすることが大変。いろいろな性格をもつた子がいるので、管理するのが難しい。	すぐ子どもが動き回ってしまふこと。ひとりが走り回ると他の子もつられて走り回ってしまふ。	よく聞いてくれる子どももいれば、聞けない子どももいる。先生の言ったことに反論する子がいること。	データなし
保育者は他の職種と比べてどのような存在であると思うか	先生は人の見本になっていてるので尊敬されていると思う。	先生の中では幼稚園の先生の立場が一番低い。「どこに先生？」と聞かれ、幼稚園だと答えると、「ああ幼稚園ね」と言われる。	幼児教育の大切さを知る人は、幼稚園の先生は基礎教育をするので一番重要だと言うが、幼児教育を知らない人は、幼稚園の先生は歌と踊りを教えるだけの存在で、子どもは何の勉強にもならないと思っている。	データなし	先生の中では幼稚園の先生が一番低く見られている。幼稚園は子どもを対象としていて、大人を教えるわけではないから。幼児教育はあまり大切だと思われていない。
労働条件についてどう思うか	この仕事が好きなので給料は不問。給料面を考えたなら養成学校の入試も受験していない。	文字を書くための練習や基礎の教育と、食事や服の着脱などの生活指導もして本当に大変。そのため幼稚園の先生の給料は一番高くあるべきだ。			
養成学校は楽しいか	楽しい。友達も多いので。	楽しいけれど、疲れる。			
どんなことが養成学校で大変か	多くの授業内容を覚えなければいけないこと	教材を作るためのお金がないこと。(教材：子どもにも動物や数字を教えるために使うボードなど)			
日本のイメージについて	日本人はいつもカンボジアのことを支援してくれるたぬ良いイメージがある。また教育を受けている人が多く、発展している国というイメージ。	直接日本人と関わったことがないので分らないが、開発が進んでいて日本製品は何でも良いということは分かる。	日本人と会って話したことがないので分らない。	実習園で出会った日本人を見て、習慣が素敵だと思つた。靴を脱いだらそろえる姿とか丁寧に挨拶する姿が清潔でいい。	データなし

表5 保育者へのインタビューの概要

	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	Fさん
年齢・性別 勤務歴	21歳・女性 半年	48歳・女性 22年	23歳・女性 半年	47歳・女性 25年	32歳・女性 3年	49歳・女性 13年
園のおかれた環境の特徴	村のCPS幼稚園。 24人の園児を1人で保 育している。	村のCPS保育所。 32人の園児を4人で保 育している。	村のCPS保育所。 40人の園児を3人で保 育している。	小学校併設幼稚園。70 人の園児を1人で保育し ている。	都市部スラムのCPS幼 稚園。30人の園児を3 人で保育。	都市部スラムのCPS幼 稚園。44人の園児を3 人で保育。
保育者を目標とした理由・どうしてこの仕事を続けるのか	子どもが好きだから。良 い子どもを育てたい。	子どもが好き。親たちも 支えられる。公務員試験 に落ちたのでここに就 職。4～5年勤務するう ちに子ども達が好きにな り、ここが自分の居場所 になった。子ども達の成 長が目に見て分かるよう になり、ここを離れたく なくなる。	今世界では教育の質が高 くて、自分の村の子ども 達にも教育を受けさせて あげたいと思ったから。	子どもが好きだから。	生活のため	疲れるが、仕事なので。 そして子どもが好きだか ら楽しくやっている。
保育者の魅力	一番楽しいのはお話をし たり、歌を歌ったり、ボ エムを読んだりするこ と。子どもと遊んでいる とき。	子どもをよくでできるこ と。入園当初は泣くけ ど、慣れれば勉強して頭 もよくなる。大学に行 き、良い職業に就く子も いる。子どもの成功につ いて聞くと嬉しい。	尊敬されるところ。	子どもが勉強している姿 を見ることが。	多数の子どもが園に来た ときは嬉しい。自分の もっている教育を、カン ボジアの子ども達に全て あげたい。伝えたい。多 くの子ども達にもらっ てほしい。	子どもが楽しそうにして いるのを見ること。自分 も嬉しくなる。
保育で大変なこと	難しいのは、数字や文字 を教えること。	子どもと関わる仕事は、 すべてが大変。子どもの 安全面。けがや骨折を常 に心配している。保育だ けではなく、食事や午睡 時も面倒を見なくては いけない。ずっと気にか けている。保育園に來る子 どもが少なくなること も責任者として心配。	子どもが言うことを聞か ないとき。大きい声を出 さないといけないので、 のどが痛くなる。	子どもが多すぎて一生懸 命声を出しても声が届か ないこと。子どもの声の 方が大きくて、のどが痛 くて話がでないほど。	親が貧しいので子どもを 通園させないこと。園が 遠すぎて通園できない子 どもがいること。一番問 題なのが、村人が子ども の教育に関心を持って いないこと。	新しい子が入ってきたと きは大変。慣れるまでし ばらくの間は泣くので。

どんな保育を目指しているか	きれいな保育園を目指している。展示や飾り付けを工夫して、子どもが幼稚園に行きたい！と思えるような、遊びと教材が揃っている。	子どもが健康に成長できるように意識している。基礎教育だけでなくルールや衛生も教える。良い習慣を習得させるためには全部幼児期からしないといけない。小さいころから良い教育を受ければ、成長しても良い人になれる。	衛生面が子どもに身につくような保育。掃除したり、きれいな好きになってほしい。	データなし	データなし	データなし	毎日子どもに教えていることを、子どもがずっと忘れないでいてくれるような保育を目指している。小学校に行き、高校卒業するまで勉強をし続けなさいと、いつも子どもに話している。
どんなことに気をつけて保育をしているか	子ども同士のかんがえあいを促すこと。交通安全に気をつけて遊ぶように。	子どもの安全面について。	データなし	データなし	子どもの安全の為に、ずっと気を付けている。	データなし	保育所にいる間は、子どもが怪我をしないようにずっと気にかけている。
保育者の一日の流れ	朝 7 時に園に到着。10 時に保育が終わる。子どもも同じ時刻に出動し、退勤する。	朝 6 時に出勤して 7 時半ごろまで子どもの受け入れをしつつ掃除や保育の準備を行う。子どもは 7 時から 15 時まで預かる。	朝 6 時半に出動し、外掃除と部屋の掃除・準備をし、子どもの受け入れをする。子どもは 7 時から 15 時まで預かる。	午前部は 7 時半から 10 時まで。午後部は 13 時半から 16 時まで。しかし保育者不足と午前しか給料がでないため、午前の部で 70 人の子どもをみている状態。	6 時 30 分～10 時ごろまで	データなし	データなし
保育終了後の仕事の様子	15 時ごろまでバンキヤンのセンターのお手伝い。	教材などの片づけを行う。15 時半までに親が迎えに来なかったら、子どもを自分の家に連れて行く。17 時まで子どもを預かりながら、家で布人形を作る。箱作時期は、田んぼへ行き作業する。	園の掃除をし、15 時半に帰宅する。帰宅したら布人形を作る。	データなし	データなし	データなし	データなし
カンボジアの保育所・幼稚園が抱えている課題は何か	保育者の責任が大きく、頑張らなければならないところ。	幼稚園の開園時間が短い。一日預かれれば食事でも出せて安心。特に田舎では保育所のような場所を増やす必要性を感じる。	教材がそろっているのに、特に問題はない。ただ庭が広いので掃除をするのが大変。	子どもが多すぎること。保育者不足。	親が貧しいので子どもを遠くまで通園できない子どもが多いこと。一番問題なのが、村人が子どもの教育に関心を持っていないこと。	この地域は貧しい家庭が多いので、この保育所がずっと残したい。保育所があれば、親は子どもを預けて仕事に行ける。希望が大きい。子どもは保育園で栄養のある食事がとれ勉強できる。	データなし

労働条件について	給料はちょうどいいと思う。保育時間はもっと長い方がよい。	五感と体全部使っている。給料は少ない。物価が高くなり生活できない。重労働で仕事量も多いのに薄給でバランスが悪い。子どもが好きな仕事だ。	もう慣れたのであまり大変だとは思わない。物価が高く、保育士の給料だけでは生活できない。	データなし	給料だけでは生活はしないといけないが、仕事をしても収入があると助かる。生活の為に仕事を続けている。	データなし
保育者の社会的立場について	今のカンボジアでは先生が一番良い仕事。一般の方より知識があるため。	保育者は「2番目のお母さん」。どの子どもにも安心して母のように思ってもらえる。何でも話してくれる。	カンボジアでは幼稚園の先生が一番低い立場にいる。他の国では基礎教育をしているので幼稚園の先生が一番高いと感じる。	データなし	データなし	データなし
育児休暇	未経験で知らない	3か月ある。	データなし	データなし	データなし	データなし
どんな支援をしてほしいか	子どもの遊び道具がほしい。日用品も。	保育所の運営支援。村人や保育者だけで運営する力はまだない。保育者も教えるだけでなく、野菜やお米を育てるなどして子どもに育てていく。	給食の支援と保育所運営の支援が嬉しい。また日本人が遊びに来ると嬉しい。一緒に遊べて楽しいし、教材もお菓子ももらえるので。	絵本などの教材がほしい。絵本は文字が少ない方がいい。文字が少なく絵が大きいものの方が子ども達も嬉しい。遊具もほしい。	寝る時に敷くゴザがほしい。枚数が足りていないので。机が足りないのでも、机も支援してほしい。	子どもの食事を支援してほしい。もつと栄養価の高いものを出してほしい。
日本のイメージ	開発した国。発展した国。日本で生活したい。	日本人はよい人。優しい。日本人は支援しても見返りを求めない。日本の保育所はすごく良い。親も協力的。	日本は良い。カンボジアを支援してくれるので。	日本人が好きです。みんな美しい。	日本人は支援をしてくれる。いつも優しい。特にこの保育所は日本人が建ててくれた。	イメージは良い。日本人が好き。優しい。

資料1 保育者養成施設で学ぶ学生へのインタビュー（逐語訳）

(1) Gさん：ウォン・ラ・スマインさん 男性（22歳）1年生

石川：1年生と聞いていたので18歳とかかなと勝手に想像していたのですが、22歳ということでお聞きます。何歳からでも養成学校は入学できるということですか？

Gさん：高校卒業してからすぐこの養成学校の試験を受けましたが、落ちてしまいました。

石川：そのような人は何人かいるのですか？

Gさん：はい。いろんな年齢の人がいます。

石川：今、何を目指していますか？ 保育士ですか？

Gさん：今は幼稚園教諭になるための勉強をしています、将来は中学の先生になりたいです。

石川：どうして幼稚園教諭になるための勉強をしているのに、中学の先生になりたいと思ったのですか？

Gさん：小さい子から年齢の上の子までみたい。だからまずは幼稚園、そのあとだんだん上のほうにいきたい。

石川：今は幼児教育を勉強しているけど、それが終わったら小学校の勉強をして最終的に中学の先生になるための勉強をしたいということですか？

Gさん：幼稚園の先生になるための勉強が終わったら、一応保育者として働きます。そして働きながら中学の先生になるための勉強をしたいと思っています。幼稚園はだいたい午前か午後しかないので、その時間にまた学校へ通い、中学の先生になるための勉強をして、また採用試験を受けたいと思っています。

石川：中学の先生になろうと思ったのはいつごろですか？

Gさん：小さいころから「先生」になりたいと漠然と思っていた。だから勉強は幼児期から順番にやっていこうと思った。

石川：どうして「先生」になりたいと思ったのですか？

Gさん：人に教育をしたいと思ったから。先生が好きだから。

石川：先生っていう夢がほかの夢に変わったことはありますか？

Gさん：ありません。ずっとなりたくて、この養成学校に入るまで5回入学試験を受けました。それで今年やっと受かったんです。

石川：この学校に入学するために、5年かかったということですか？

Gさん：この学校の入学試験だけではなく、幼稚園教諭になるための試験、小学校教諭になるための試験、中学校教諭になるための試験も受けています。いろいろ受けたのですが、毎年落ちてしまいました。5回入学試験に落ち続けたということです。

石川：それは学校とかに通って勉強したのではなく、独学ですか？

Gさん：塾に通っていました。

石川：先生になるためには大学を出ていなくても試験に受ければ先生になれるということですか？

Gさん：高校を卒業してれば、大学に通っていなくても試験に受ければ先生になれます。

石川：どういう先生になりたいですか？

Gさん：良い先生になって、次の時代の見本となれるような先生になりたいです。

石川：先生の魅力はなんだと思いますか？

Gさん：まだ多くの人が教育を受けることができていないし、悪いことをしてしまっている人もいます。そのような人たちに良い人になってもらうために先生となり教育をしたいです。

石川：今のカンボジアの幼児教育の課題は何だと思いますか？

Gさん：小さい子なので話を聞けない子が多いこと。また遊びが好きで、親と離れたがらないことも課題だと思います。きちんと子どもを見ていないと事故にあったり怪我をしてし

まったりして大変です。自分でトイレにも行けないので、そこまでお世話をしなければならなりません。

石川：先生は客観的に見てどのような立場にいますか？

Gさん：先生は人の見本になっているので尊敬されていると思います。

石川：給料や働く時間についてはどう考えていますか？

Gさん：この仕事が好きなので、給料については考えたことはないです。もし考えたとしたら、この養成学校に入るための試験も受けていないと思います。

石川：この学校は楽しいですか？

Gさん：楽しいです。友達も多いので。

安藤：女性が多いし男性が少ないのに、楽しくできているのですか？

Gさん：普通にみんな楽しいです。

石川：男性の方は1年生の中で何人くらいいるのですか？

Gさん：9人います。そのうち7人はここで寮生活をしています。

石川：やはり保育園の先生とか、小さい子をお世話する人は男性だと少ないですか？

Gさん：あまり多くはないです。養成学校の入学試験も、男性はほとんど合格させません。

石川：小学校とか中学校とかだと男性の方もいっぱいいますか？

Gさん：そうですね。

石川：どんなことが大学生活で大変ですか？

Gさん：あまり授業内容を覚えられないことが大変です。若いときはいっぱい覚えられたんですけど、もう今はあまり覚えられないですね。(笑)

石川：日本のイメージを教えてください。

Gさん：日本語ガイドをしている友達が1人います。その人は、日本人はいつもカンボジアのことを支援してくれ、助けてくれると言っていました。なので良いイメージがあります。また、教育を受けている人が多く発展している国というイメージですね。

(2) Hさん：ケイン・ソブチンさん 24歳， Iさん：ナウ・チャンさん 20歳， Jさん：スン・スレイモンさん 22歳， Kさん：トゥン・チャウンさん（男性）26歳

石川：今目指している職業を教えてください。

Hさん：保育者。

Iさん：大学の先生です。学部などは具体的に決めていないけれど、保育者になった後、大学の先生になりたいと思っています。

Jさん：中学の先生。

Kさん：高校の先生。

石川：どうしてその仕事に就きたいと思うようになったのですか？

Hさん：子どもは基礎の教育が必要。幼稚園に通えば高齢の方に礼儀正しく振舞えたり、ほかの人のことを理解できたりするようになるから。

Iさん：幼稚園の先生にまずはなり、子どもに教えたい。次にその経験を生かして中学の先生、高校、最終的には大学の先生として働きたい。

Jさん：幼稚園の先生だけではなくて中学までの先生になりたいから。自分の能力をレベルアップさせたいから。

Kさん：小さい子どもの教育からもっと広げていき、自分だけではなくカンボジアの次の世代がもっと勉強できるように高校の先生になりたい。

石川：今の夢を諦めたり、別の夢に変わったりしたことはありますか？

Hさん：変わったことはない。しかし、保育者として働きながら商売もやりたい。

Iさん：先生になりながら結婚式のアレンジをする会社でも働きたい。

Jさん：先生プラス服を作る人になりたい。

Kさん：先生プラス農業をして家を改築したい。

石川：今の夢を目指し始めた時期はだいたいいつ頃ですか？

Hさん：高校を卒業してから、今カンボジアでは先生が足りないこと、また先生の必要性を知って、なりたいたと思った。

Iさん：中学を卒業してから先生を目指すようになった。自分の担任の先生がとても教えるのが上手な人で、自分も学んだことをほかの人に伝えていきたいと思うようになった。

Jさん：小学校3年生の頃からなりたいたと思っていた。そのころ先生に叩かれた経験があり、その時に大きくなったら先生になって子どもを叩き返すぞ！と思った。リベンジしたくて。今はそんな気持ちはありません。(笑)

Kさん：中学1年生の頃からなりたいたと思っていた。先生になれば自分も勉強をすることができるし、他の人のも教育をさせることができるから。

石川：自分が保育園に通っていたときは何になりたかったですか？

Hさん：自分の村に幼稚園がなかったの、通っていなかった。生活するだけで精一杯だったので夢はありませんでした。

Iさん：小さい頃は歌が好きだったので歌手になりたかった。

Jさん：家族みんなで生活していなかったの(＝両親が離婚した)、安心して勉強することができない状態だったので夢はありませんでした。

Kさん：ビジネスマンになりたかった。ビジネスをやっている人は皆お金を持っているから。

石川：実習というのはどれくらいあるのですか？

A：2年間で2回ある。1年生のときは1か月。その2週間前に2週間、先生の働く姿を観察して実際にクラスに入って先生の教える姿や部屋の飾りつけなどをみて学ぶ。そのあと、自分で1か月間実習する。2年生は2か月の実習。

石川：今、その2か月の実習の最中ということですか？

A：はい。半分終わってあと1か月です。

石川：実習というのは校内にある附属の園に行くのですか？

A：附属の園で行く人もいるし、そうではないところで実習を行っている人もいる。園長先生が学生の配属を決めているのだと思う。

石川：実習時間はどれくらいですか？

A：6時半から12時まで。本当は10時半までだが、遅くに迎えに来る人もいるので。

石川：日本だと実習が終わったら毎日その日の記録などを書くものがたくさんあるのですが、そのようなものはありますか？

A：あります。例えば3人同じ実習園に行ったら、1人は保育を行いあとの2人は後ろで評価を行っている。午前中が終わったら午後は次の日の準備を行います。明日なにをするか話し合ったりします。

石川：先生の代わりをするということですか？お手伝いではなくて。

A：はい。先生は後ろで評価しています。それが毎日です。(※毎日が全日実習ということ)

石川：実習に初めて行ったとき、どう感じましたか？

Hさん：1日目はすごくドキドキしました。子どもも慣れていないし、顔も覚えてくれないので話を聞いてくれなかったのが大変でした。2,3日行くと少しお互いが慣れてきたので落ち着いて話を聞いてくれるようになりました。

Iさん、Jさん、Kさん：同じです。

石川：実習に行ってもっと先生になりたいと思ったか、大変だからやめたいと思ったか、どう感じましたか？

Hさん：全員が話を聞いてくれないわけではないし、かわいい子もいっぱいいるので楽しいです。なので気持ちは変わりません。

Iさん：初日はどうしよう……と迷う気持ちもありました。泣く子もいるし、話を聞いてくれない子もいるので大変で。でも先生になりたい気持ちは変わらないので、これからも目指

し続けます。

Jさん：疲れたときや大変なときは、どうして自分は先生を目指しているのだろうと自分でも疑問を持つこともあったが、しばらくすると小さいころから先生になりたいと思い続けてきたし、養成学校の入学試験にも合格したのに簡単にやめることはできないと思った。

Kさん：同じく疲れたときや大変なときは自分の将来の夢に対する気持ちが少しずれたのですが、でもこの養成学校に入るために何年もかかってやっと受かったので、最後まで頑張らないといけないと思い直したので、頑張り続けようと思います。

石川：この養成学校に入るのはそんなに大変なことなのですか？

A：はい。とても大変です。5,000人の受験者に対し、合格者は200人しかいません。カンボジア各州からの受験者がいるので受験者数が多いのだと思います。

石川：どんな保育者、先生になりたいですか？

Hさん：良い先生になりたいです。子どもをかわいがってあげたい。自分が持っている能力を全部あげたいです。

Iさん：良い先生になって子どもが理解できるように、優しく教えてあげたいです。

Jさん：優しい先生になって、子どもにも優しく接したい。先生は「第二のお母さん」と呼ばれる存在であるのでその通りにやりたい。また次の人材を育てるためには幼児期が大切なので、社会の良い人材となるように育てていきたい。

Kさん：良い先生になって子どもたちのことをよく理解して、子どもに良い人になってほしいです。

石川：保育者の魅力は何だと思いますか？

Hさん：尊敬されるところと、子どもをコントロール（※子どもを良い方向に導くことができるという意味）できるところが魅力だと思います。

Iさん：中学1年生のときに素敵な先生に出会いました。その人を見て自分も先生になりたいと思うようになったのです。先生はかっこいいです。その先生みたいになりたいです。

Jさん：特に自分の村には能力を持った人がいないので、先生になったら尊敬されて、人材を増やせる。自分の村にもっと能力を持った人が増えるようにしたいです。

Kさん：先生は子どもをコントロールできる、素晴らしい仕事だと思っています。良い先生が次の世代の見本になれることが魅力だと思いますね。

石川：保育所・幼稚園の課題は何だと思いますか？

Hさん：子どもをコントロールすることが大変です。子どもはいろいろな性格を持った子がいるので、管理するのがとても難しいです。

Iさん：すぐ子どもが動き回ってしまうことだと思います。ひとりが走り回ってしまえば、他の子もつられて走り回ってしまうので。

Jさん：よく聞いてくれる子どももいれば、聞けない子どももいる。先生が言ったことに対してすぐ反論してしまう子がいることだと思います。

石川：保育者は他の職種と比べてどのような存在だと思いますか？

Hさん：先生の中では幼稚園の先生の立場が一番低いと思います。試験を受けて合格したと伝え、「どこの先生？」と聞かれ、幼稚園だと答えると、「あー……幼稚園ね……」と言われてしまう。

Iさん：幼児教育の大切さをよく知っている人は、幼稚園の先生が基礎教育をしてくれるので一番重要だと言ってくれるが、幼児教育を全く知らない人は、幼稚園の先生は歌と踊りを教えるだけの存在で、それだけだと子どもは何の勉強にもならないと思っている。

Kさん：先生の中では幼稚園の先生が一番低く見られていると思います。それは、幼稚園は子どもを対象としていて、大人を教えているわけではないからだだと思います。幼児教育はあまり大切だと思われていません。

石川：働く時間やお給料についてはどう考えていますか？

Hさん：幼稚園の先生が一番苦勞しています。子どもを教えるだけではなく、基礎的教育

も、文字を書くための練習も行わなければならないので。なので幼稚園の先生の給料が一番高くあるべきだと思っています。食べさせたり髪の毛をきれいにしてあげたりするのも仕事で、いろいろなことで子どもの世話をしなければならないので本当に大変です。できれば幼稚園の先生の給料が一番高くあるべきです。

石川：一番高くあるべきだけど、実際は高くないということですか？

A：前は幼稚園の先生が一番給料が低かったが、今は小学校の先生と同じくらいと聞いています。日本はどうなのですか？（回答は省略）。

石川：養成学校は楽しいですか？

A：楽しいは楽しいけど、疲れます。

石川：どういことがこの学校で大変ですか？

A：教材を自分で作らないといけないのだが、その教材を作るためのお金がないので大変です。

石川：教材とは例えばどのようなものですか？

A：授業で使っていたにわたりの絵なども教材のひとつです。（「に」がつくものなあにという活動）

石川：なにかアルバイトとかしていますか？

Hさん：この養成学校で暮らしているのでアルバイトはできません。学校は朝は7時から11時まで。午後は14時から17時まであります。夕方18時から20時は自分で復習をしないといけないので、ここに泊まっている学生は外には出て行けなと決まっています。

石川：では教材などに使うお金は、家の人からの援助を受けているのですか？

A：はい。

石川：外に遊びに行ったり買い物に行ったりできるのは、学校が休みの日しかできないですか？

A：土曜日の午前中まで学校があります。

石川：日本のイメージを知りたいです。

Hさん：直接日本人と関わったことがないのであまり分かりませんが、日本という国は開発が進んでいる国と分かっているし日本の製品ならなんでも良いと分かっています。

Iさん：日本人と会って話したことがないので分かりません。

Jさん：日本人の習慣が素敵です。靴を脱いだらそろえる姿とか丁寧に挨拶する姿が清潔できれいです。

石川：日本人と関わったことがあるのですか？

Jさん：日本人がカンボジア人と結婚してできた子どもを、実習園に預けていたのでそこで関わりました。送ってくるときにちゃんと挨拶をしてくれます。

安藤：日本人のお母さんですか？

Jさん：2～3人くらい日本人とカンボジア人の夫婦がいるので、両方の組み合わせがありますね。

安藤：手遊びなどは全部学校の先生が教えてくれるのですか？

A：昔は手遊びや踊り、色塗りなどなんの意味があるのか分からなかったが、ここで勉強していくうちにすべて意味があるのだと分るようになりました。

資料2 幼稚園や保育園で働く保育者へのインタビュー（逐語訳）

(I) Aさん：ピースナー・ソパー・ニアットさん 21歳 勤務歴：半年，村のCPS勤務

Aさん：去年の7月に養成学校を卒業して，今ここで勤務して半年です。

石川：どうして保育者になろうと思ったのですか？

Aさん：子どもが好きだから。子どもがいい子どもになるようにしたい。4人の兄弟がいます。長女です。家がバンキャンにあって，ここまではバイクで20分くらい。この幼稚園は午前中だけです。

石川：保育者の魅力……先生になって良かったと思うことは何ですか？

Aさん：良い先生になりたい。初めて来たときは子どもがまだ慣れてなかったのが難しかった。2～3か月くらいで子ども同士もだんだん仲良くなってきた。

石川：先生になって良かった，楽しかったと思うことは何ですか？

Aさん：一番楽しいのは，お話をしたり歌をうたったり，ポエム，詩を読んだりすることです。子どもと遊んでいる時間が楽しい。一番難しいのは，数字や文字を教えること。

石川：どんな保育を目指していますか？

Aさん：きれいな保育園にしたい。いろいろな展示，飾りつけをしたりして，子どもが幼稚園に行きたい，行きたい！と思えるような，おもちゃとか教育の教材，遊びがいっぱいの幼稚園にしたい。コマメンタル保育園みたいにしたい。

石川：どんなことに気を付けて保育をしていますか？

Aさん：一番気を付けているのは，子どもが遊んでいる時にけんかしないようにすること。外はオートバイや車が走っているから，道路近くで遊ばないように気を付けている。

石川：先生の一日の流れを教えてください。何時に来て，何時に帰るかとか。

Aさん：毎朝5時半に起きて6時にご飯を食べています。6時半に家を出て，7時頃到着します。7時に子どもが来て，10時に終わります。それから家に帰ります。

石川：家に帰ってから何か仕事をすることはありますか？

Aさん：この仕事が終わったら，15時までバンキャンの保育園にお手伝いにいきます。15時半ごろに家に帰って，そこからは家の仕事をします。料理をしたり洗濯をしたり食器を洗ったり……。

石川：カンボジアの保育園が抱えている問題は何だと思いますか？ここを直した方がいいと思うこととか……

Aさん：保育園の先生が頑張って教えなければなりません。

石川：責任が大きいということ？

Aさん：はい，責任が大きいということ。

石川：先生がもらうお給料はいい方だと思うか悪い方だと思うか？

Aさん：ちょうどいい。

石川：働く時間は？

Aさん：カンボジアの保育園の教育時間はほとんど午前中だけで，午後はほとんど休みです。近くに公立の学校がなくてほとんどが私立の学校しかない。時間があれば私立の幼稚園とかで教えたい。国立幼稚園は村の中だけで，町の中にはあんまりない。首都くらい。

石川：もっと保育時間が長いといいなと思うってことですか？

Aさん：はい。子どものためにもっとあつた方がよいと思います。

石川：カンボジアでは保育園の先生は偉い人なのか普通くらいなのか。社会的に見てどうですか？

Aさん：今のカンボジアでは先生が一番良い仕事になってきています。先生が一般の人より知識があるため。

石川：子どもが生まれたら育児休暇とかあるのですか？

Aさん：まだ独身なのではっきり分かりません。

石川：どういう支援をしてほしいですか？

Aさん：子どもの遊び道具がほしい。学校の日用品とか。

石川：日本のイメージを教えてほしいです。

Aさん：開発した国。流行っているものがある、発展した国。日本で生活したい。

(2) Bさん：ウ・ボラさん 48歳 勤務歴：22年、村のCPS勤務

石川：どうして保育園の先生になろうと思ったのですか？

Bさん：子どもが好き。親が仕事で出かけるときや田んぼ仕事をする時など安心して預けられる保育所なので。親たちも支えられるから。

石川：どうして先生の仕事を続けているのですか？

Bさん：ずっと子どもの世話をしているとますます好きになって、他にやりたいこともないし。

石川：どんな保育を目指していますか？

Bさん：子どもに健康に成長してほしい。小学校の先生と比べると保育所の先生の方が大変。子どもの基礎教育もしないといけないし、ルールや衛生も教えないといけない。良い習慣を身に付けさせるためには全部幼児期からしないといけない。小さいころから良い教育を受ければ、大きくなってからも良い人になれる。

石川：保育園の先生の魅力は何だと思えますか？

Bさん：子どもをよくできること。入った当時はよく泣くけど、慣れればよく勉強できるし頭もよくなる。小学校に入っても、小学校の先生から「あの子が入ったばかりなのに字も書けるし読める」と聞くと嬉しい。大人になっても大学に行く子もいるし良いところに就職できる子もいる。そういうのを聞くと嬉しい。

石川：逆に大変なことはなんですか？

Bさん：子どもと関わる仕事というのは、すべてが大変。保育所にいる子どもの安全面を考えないといけない。走り回って転んだ時にけがをしたら心配だし、ブランコや滑り台から落ちると骨が折れることもある。ずっと心配している。保育だけではなく、食べる時も寝る時も面倒を見ないといけないし、ずっと気にかけていないといけない。ずっと心配している。保育園に来る子どもが少なくなることも、自分が責任者として心配です。

石川：子どもの安全を一番考えて保育しているということですか？

Bさん：教育だけでなく安全面も考えないといけないので。全部、考えないといけない。時々保育所にいる間に熱を出す子どももいる。あまりにもひどければ近くの健康センターに連れて行って、親に連絡をする。このあいだ子どもの一人が突然倒れて息もできなくなって、すぐ皆心配して怖かった。すぐ保健センターに連れて行って親に連絡して。その子は園に来る前から調子が悪かったのだが、親が薬を飲ませすぎて、体と薬が合わなくて倒れてしまった。大変だった。保健センターの先生に助けられてよかった。

石川：先生の一日を教えてほしいです。何時に来て……とか。

Bさん：6時に外掃除をする当番の先生が来て、掃除する。そして子どもを受け入れる。親から保育料をもらう。毎日、掃除が終わったらトイレに水を運びます。手を洗うために水を入れます。朝の準備は7時半までかかる。子どもを受け入れながら、外掃除をする人と中掃除をする人で分かれています。中掃除をしたら今日のカリキュラムは何かチェックして、そこから準備をする。そのあとは皆を集めて運動（体操）をして、クラスに入っておかゆを8時くらいに食べる。6時に来る先生は3人いて、1人は外掃除、1人は中掃除、1人はおかゆを作るための水を沸かす。水が沸いたら市場に買い物に行き、帰ってきたらおかゆ作り。週に5日ある。月曜から金曜。毎日カリキュラムが違う。自由遊びもあるし読み聞かせもある。10時半からは水浴びをする。そのあとはご飯を食べて歯磨きをしてお昼寝をする。昼寝をした後はなぞなぞの本を読んだり詩の本を読んだり歌を勉強したり。これらは毎日カ

リキュラムとして決まっている。そのあとは軽食。ゆで卵やお菓子を月に2回。子どもは7時から15時まで預かる。

石川：子どもが帰った後はなにか仕事をしますか？

Bさん：子どもが帰ったら、子ども達が遊んだ教材とかを片づける。

石川：家に帰るのは何時頃ですか？

Bさん：15時半くらい。遅くに迎えに来る親もいる。待たないといけない。15時半までに迎えに来なかったら、その子を先生の家に連れていく。17時まで迎えにこない親もいる。

石川：家に帰ってからする仕事はありますか？

Bさん：布人形を17時まで作ります。そこから家の夕飯を作ります。布人形は、この保育所だけではなく、カンボジア全国の公立幼稚園・公立地域幼稚園に配るための物で、CYKが行っている活動のひとつ。保育士の給料が安いので、これで少しプラスになるようにしている。布ボールは、保育料が払えない親が作っている。稲作時期であったら、保育所が終わってから田んぼへ行き、作業をしなければなりません。

石川：カンボジアの保育所が抱える問題は何だと思いますか？

Bさん：他の園には行かないのでよく分からないけれど、普通の幼稚園だと半日だけしか預かれなく、一日預かれる所がすごく大事。一日預かれれば食事を出せるので安心できるが、幼稚園のように半日だとそれができない。保育所のような場所を増やす必要性を感じる。

石川：教育時間がもっと長い方がよいのではないかということですか？

Bさん：特に田舎の方の一日の保育所の方がが必要です。子どもが小さいときは特に長時間預けられる場所が必要です。大きくなってからは半日でも良いのだけど……

石川：先生の労働環境についてはどうでしょうか？ お給料とか働く時間についての考えを知りたいです。

Bさん：労働時間はずっと、仕事に入ってからずっと休めないし、子どもが動いているから先生も動かなければならない。手・足、体全部、耳も目も見ないといけない。全部使って仕事をしているので大変です。給料は少ないですね。物価も高くなってきているので、給料だけだと生活していけないんです。給料は70ドルプラス追加手当40ドルの計110ドルが1か月の給料。重労働だし仕事量も多いのにこの給料だと考えると、バランスがとれていないと思う。子どもが好きじゃないとやっけない仕事だと思います。

石川：保育所の先生というのは、社会的に見てどのような立場にいますか？

Bさん：先生は、「2番目のお母さん」と呼ばれている。どの子どもも安心してお母さんのように思っている。時々子どもが「先生、昨日うちのお父さんとお母さんけんかしてたよ」と言ってくれるなど、安心して話すことができる。結婚式のセレモニーに出席したことや、プノンペンに帰ったことなど、全部報告してくれる。なんでも話してくれるので、慣れてしまったら子どもは先生のことを怖くなくなってしまう。

石川：育児休暇とか、自分の子どもができたら保育所の仕事を休めるといった制度はありますか？

Bさん：はい。3か月間あります。

石川：では女の人が働きやすい環境でありますか？

Bさん：女の人が先生になることは良いこと。自分は小さいころから公務員として学校の先生になりたいと思っていて、試験を受けたんですけど、落ちてしまった。その頃ちょうどこの園が保育士を募集していたので応募をした。自分の1人の娘はたぶんあなたたちと同じ年だと思うんだけど、先生になってほしいから試験を受けさせたんですけど、娘は先生になりたくないらしい。一応試験は受けるけど、なりたくないと言っている。この保育所で仕事を始めた後に公立の中学で先生が足りないから来てほしいと言われた。でも4、5年働いていると子どものことが好きになっていって、自分の居場所になっていた。その時は皆貧しいから最初は子どもの服が汚かったが、保育所に通ううちにだんだんきれいになっていった。その変化を見ることができたので、ここを離れたくないと思った。だからずっとここにいるん

です。その時のここの給料（CYKの支援する保育所）は、公立の保育所よりもよかったのでそれも理由の一つであった。自分で世話をしていたので離れたくなかった。だから中学へは行かなかった。

石川：保育園の先生っていい仕事なんですか？

Bさん：保育園の先生は良いですね。でも保育園の先生は給料が安い。でも保育園が一番大切だから。保育園に通うほとんどの子は勉強を長く頑張ることができるし、良い将来になっている。だから保育園の先生はとても大切な良い仕事だけど、給料が安い。私が思うに、先生の中で一番苦労しているのが保育園の先生。小学校の先生が「幼稚園から通っている子は慣れているのですぐに教えることができる」中学校の先生も「子どももう大きいので話も聞けるし、慣れているので教えやすい」と言う。でも保育園の子どもは慣れるまで泣くし、文字が分かるようになるまでには時間がかかるので、一番大変です。

石川：どんな支援が嬉しいですか？どんな支援をしてほしいですか？

Bさん：ずっと運営の支援をしてほしいです。というのも、村人のみで運営するだけの力はまだないから。できれば保育所の運営を続けてほしいです。先生も頑張っているんです。教えるだけじゃなくて野菜を育てたり稲作をしたりして子どもの食事に充てています。でも全部運営するだけの力はありません。

石川：日本のイメージを教えてください。

Bさん：日本人は良い人。優しい。日本人はどれだけ支援しても見返りを求めない。この保育所も日本人が支援してくれて、日本人がいなければこの保育所はない。日本人は本当に優しい。本気で支援してくれる。日本に1回だけ行ったことがあります。日本の保育所はすごく良いです。親も協力的で。たぶん親が働いていて収入があるから子どものために協力できるのだと思う。

(3) Cさん：パースレイモンさん 23歳 勤務歴：半年、村のCPSに勤務

石川：どうして保育者になろうと思ったのですか？

Cさん：私はこの保育所の卒園生で、CYKの奨学金により養成学校に通い、先生になりました。今世界では教育の質が高く、自分の村の子ども達にも教育を受けさせてあげたいと思ったからです。

石川：先生の魅力は何だと思いますか？

Cさん：尊敬される場所だと思います。

石川：大変なことはなんですか？

Cさん：子どもが言うことを聞かないときは大変です。大きい声を出さないといけないのでのどが痛くなります（笑）

石川：どんな保育を目指していますか？

Cさん：教育を受けさせて、そして一緒に住む環境に慣れるようにします。掃除をするようになるなど、子どもにきれいだ好きになってほしいです。衛生面が子どもに身に付くような保育を目指しています。

石川：先生の日を教えてください。

Cさん：6時半に出勤し、外掃除と部屋の掃除や準備、子どもの受け入れを行います。子どもは7時から登園開始します。8時ごろに子どもが皆集まったらおかゆを食べます。ご飯を食べたらおなかを休めるために少し休憩をして、そのあとは外で国歌斉唱を行い、運動をします。そして教室に入り、勉強が始まります。その勉強はCYKのカリキュラム通りにやります。

安藤：クラスは年齢で分けているということでしょうか？

Cさん：一緒にやっているカリキュラムもあるし、大きい子と小さい子に分けて行うものもあります。

石川：そのカリキュラムというのはCYKが作成したのですか？

スレイさん：CYK と先生で話し合っただけ決めたものです。教育省のものを参考にして、相談しながら作っています。

石川：何時ごろに保育は終了しますか？

Cさん：3時までです。

石川：3時に子どもが帰ったら先生たちは少し掃除をして、何時ごろ帰りますか？

Cさん：3時半ごろです。

石川：家に帰ってからなにか仕事をすることはありますか？

Cさん：副業で布人形を作ります。時々、夕食のための料理を作るときは縫えませんが。

石川：布人形というのは、保育士とは全く別の仕事ですか？

スレイさん：はい全く別の仕事です。自分の空いている時にやってもらう仕事です。月に20個作ってもらいます。

石川：それでどれくらいお金はもらえるのですか？

スレイさん：1個6,500リエルです。だから13万リエル。20個で32.5ドルですね。

石川：カンボジアの保育園や幼稚園が抱える問題は何だと思いますか？

Cさん：教材が揃っていないので特に問題はないと思います。ただ庭が広いので掃除をするのが大変です。

スレイさん：多分カンボジア全体ではなく、この保育所の問題点について言っています。

石川：労働時間や給料についてはどう思っていますか？

Cさん：もう慣れたのであまり大変だとは思いません。でも今は物価が上がってきているので、保育士の給料だけでは生活ができません。

石川：カンボジアでは保育園の先生は社会的にどのような立場にいますか？

Cさん：カンボジアでは幼稚園の先生が一番低い立場にいます。でも他の国では幼稚園の先生が一番高いです。というのは基礎の教育を子どもにしているので大変だからです。

石川：でもカンボジアでは低いと思うということですか？

Cさん：自分はそう思います。

石川：女の人が働きやすい環境にあると思いますか？

Cさん：はい。家の近くにもあるし、私自身は働きやすいです。

石川：どういう支援が嬉しいですか？

Cさん：給食の支援とか保育所運営の支援が嬉しいです。また日本人がこのように遊びに来ると嬉しいです。一緒に遊べて楽しいし、教材もお菓子ももらえるので。

石川：日本のイメージを教えてください。

Cさん：日本は良いです。日本だけではなく、カンボジアも支援してくれるので。

(4) Dさん：セイン・ジャン・ディーさん 47歳 勤務歴：25年、小学校併設幼稚園勤務

石川：どうして保育者になったのですか？

Dさん：子どもが好きだからです。

石川：この園の仕事は何時に終わりますか？

Dさん：午前部は7時半から10時まで。午後部は13時半から16時までです。

石川：二部制ということでしょうか？

Dさん：はい。年齢が小さいのであまり保育時間が長いとおなかが空いてしまいます。(笑)

石川：給食とかはないということですか？

Dさん：ないです。前はCYKが朝ごはんを出してくれていたが今はもう支援が終わってしまったので。(※CYKは3年支援したらその後は手を引き、その村が自立して運営しているようにという方針を取っている。)

安藤：では食べ物などは一切提供していないということですか？

Dさん：おやつは出します。でも月に2回、豆乳だけです。

石川：大変な事って何ですか？

Dさん：子どもが多すぎて一生懸命声を出しても声が届かないことです。子どもの声の方が大きくて、のどが痛くて話ができないほどです。普通は7クラスに分けるのですが、先生がいないのでここではまとめて1クラスにしているのです。

石川：午前も午後もこの先生が1人で保育をしているのですか？

Dさん：前は二部に分けて1人でやっていたのですが、給料は一部の分しかもらえないので、今はまとめて一緒にやっています。だから子どもが多いんです。本当は80人ほどいるんですけど、座る場所がないので今は別のところに移りました。私立の学校に行っている子もいるのですが、私立に通いながら、公立に通っている子もいます。私立学校は子どもになにもやらせず全部やってあげてしまうのですが、公立は子どもに全てやらせます。なので車を持っているようなお金持ちの人でもここ（公立）に連れてきます。これも子どもが多い理由の一つです。

石川：どういう支援をしてほしいですか？

Dさん：絵本などの教材がほしいです。絵本は文字が少ない方がいいです。文字が少なく絵が大きいものの方が子ども達は好きです。子どもは読めないで絵だけを見ます。またできれば外遊具もほしいです。

石川：保育園の先生で良かったなと思うことはありますか？

Dさん：子どもがよく勉強できていることが嬉しいです。

石川：カンボジアの保育の課題は何だと思えますか？

Dさん：一番大変なのは子どもが多すぎることです。普通なら25人ですが今は70人以上になっているんですね。話を聞ける子もいれば聞けない子もいるので大変です。声が出なくなってしまうです。

石川：では最後に日本のイメージをお聞かせください。

Dさん：日本人が好きです。みんなきれいですね。毎日でもいいので来てください！（笑）

(5) Eさん：サム・オウ・ピノセイさん 32歳 勤務歴：3年、都市部のスラムのCPS 勤務

Eさん：保育者としては3年目です。以前は大人を対象にプログラムを行っていました。

石川：この保育所で大変なことはなんですか？

Eさん：親が貧しいのであまり子どもを園に送ってこないことです。家庭訪問をすると、親は「お金がない」と言う。園から遠いところに住んでいる人も本当は送っていききたいのだが、バイクや自転車も持っていないため子どもを園に連れていくことができない。一番問題なのが、村の人が子どもの教育に関心を持っていないこと。だからより子どもを連れてこないのだと思う。

石川：どういう支援をしてほしいですか？

Eさん：寝る時に敷くござがほしい。枚数が足りていないので。また机が少ないので、子どもがたくさん来た時には座る場所もなくなってしまうので、机も支援してほしい。

石川：お金やお給料についてはどうお考えですか？

Eさん：給料だけではもちろん生活はしていけないが、仕事をしないとほんと大変になる。少しでも収入があると助かる。

石川：そのためにお仕事が続けているということですか？

Eさん：はい。生活のためです。

石川：先生になって嬉しかったことはありますか？

Eさん：たくさんの子どもの園に来たときは嬉しいです。なかなかこない家庭には家庭訪問を行い、「お金がないから」と言われても、「お金がなくても来てください。園のお金でシェアをして、給食も出しますから」と伝えています。

石川：どうしてたくさん来てくれると嬉しいのですか？

Eさん：自分が持っている教育は全てカンボジアの子ども達にあげたいので。持っているだ

けではなく、あげたい。多くの子ども達にもらってほしいからです。

石川：日本のイメージを教えてください。

Eさん：日本人はいつも優しくて支援をしてくれるから。特にこの保育所も日本人が建ててくれたもので、だから嬉しい気持ちがあります。

石川：どのようなことに気を付けて仕事をしていますか？

Eさん：子どもを受け入れてから家に帰すまで、ずっと気を付けています。子どもの安全の為に！

(6) Fさん：カン・ソ・ティエリーさん 49歳 勤務歴：13年、都市部のスラムのCPS勤務

石川：どうしてこの仕事を続けているのですか？

Fさん：疲れるのは疲れるが、仕事なので。そして子どもが好きだから楽しくやっています。大変なのは新しい子が入ってきたとき。しばらくの間は慣れるまで泣いてしまうので。

石川：保育をしていて嬉しいときはどんな時ですか？

Fさん：子どもが楽しそうにしているのを見る時です。その姿を見ると自分も嬉しくなります。

石川：どんな支援が嬉しいですか？

Fさん：子どもの食事ですね。給食の支援をしてほしいです。もっといいものを出してあげたい。

石川：カンボジアの保育園の課題は何だと思いますか？

Fさん：外に出たことがないのでこの保育所以外のことは分かりません。

石川：ではこの保育所でいうと何かありますか？

Fさん：保育所があれば親は子どもを預けてその間仕事に行くことができます。この地域には貧しい家庭が多いので、この保育所をずっと残したいです。希望が大きいです。特に子どもが園に来たら、子どもは元気になります。食べる時間も寝る時間も勉強する時間もあるので。だから親としては土日もやってほしいと希望する人が多いのですが、先生にも休みは必要なのでそれはできません。なのでずっとこの園を残したいです。

石川：どんな保育を目指していますか？

Fさん：毎日子どもに教えていることをずっと忘れないでいてくれるような保育を目指しています。小学校に行き、高校卒業するまで勉強をしないと子どもにいつも話しています。

石川：日本のイメージを教えてください。

Fさん：イメージはいいですね。日本人が好きです。優しいです。

石川：どんなことに気を付けて保育をしていますか？

Fさん：子どもがけがをしないように気を付けています。保育所にいる間はけがをしないようずっと気にかけています。

Fさん：たくさん聞いてくれてありがとう！